

「世界一の木造歩道橋」^{ほうらいばし}蓬萊橋を中心とした かわまちづくりについて

大橋 源太¹

¹ 静岡河川事務所 工務課（〒420-0068 静岡市葵区田町3丁目108番地）

2017年3月に「かわまちづくり」支援制度実施要綱に基づく登録を受けた島田市宝来地区のかわまちづくり計画に対する島田市、民間事業者、国土交通省とが連携した取り組みについて報告する。左岸側の蓬萊地区に続き、蓬萊橋の右岸側も2021年3月に登録された。これをうけ、両岸が一体となり蓬萊橋の魅力の向上を図り、大井川を軸に観光客が周遊するネットワークの形成を目指すものである。

キーワード 島田市、蓬萊橋、かわまちづくり、歴史、地域活性化、地域連携、

1. はじめに

島田市は大井川の中流部に位置し、大井川を挟む東海道の宿場町として、大井川を川越する人々にぎわった場所でもある。

大井川には、世界一の長さを誇る木造歩道橋の蓬萊橋が架かっている。明治期に牧之原の茶畑が開墾され、それに伴い島田からの農道として架けられた蓬萊橋は、県外からも多くの観光客が訪れる観光名所となっている。さらには、時代劇等のロケ地としても活用されている。なお、蓬萊橋は木造橋として世界一の長さが認められ、ギネスブックにも登録されている。

こうした特性を生かし、島田市では、大井川を軸としたまちづくりを進めており、世界一長い木造歩道橋「蓬萊橋」とその周辺の水辺を「観光・交流」「にぎわい」「憩いの場」を創出できる拠点として活用する取り組みを進めている。本報告は「かわまちづくり支援制度」を活用し、地域活性化を目指した取組を紹介する。



図-1 島田市蓬萊橋の位置図

2. かわまちづくりとは

かわまちづくり事業とは、まちづくりにおいて河川空間を積極的に活かすことを目指し、河川とそれに繋がるまちを活性化する取り組みである。事業の推進に向けては「かわまちづくり支援制度」が設けられており、同制度は河口から水源地まで様々な姿を見せる河川とそれに繋がるまちを活性化するため、観光基盤となる「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、市町村、民間事業者及び地元住民と河川管理者の連携の下、「河川空間」と「まち空間」が融合した良好な空間形成を目指すものである。また、河川利用の面においては占用許可を緩和により2011年3月から全国の河川で、民間事業者が飲食店、オープンカフェ、広告板、照明・音響施設、バーベキュー場等を設営することが可能になったことから様々な利用スタイルでの動きが広がっている。狩野川では「かのがわ風のテラス」にて、民間事業者によりバーベキューやカヤックの体験が提供されている。



図-2 かのがわ風のテラス（狩野川）²⁾

3. 大井川宝来地区かわまちづくり計画

(1) 経緯

蓬莱橋はドラマや映画の舞台になるなど、観光客は年々増加しており、平成28年度には約12万人もの観光客が蓬莱橋を訪れている。開催されるイベントについても年々訪客人数が増加し、2009年には車で10分という直近に富士山静岡空港が開港され、海外からの観光客が急増し、外国人からも人気の高い観光地となっている。また、大井川沿川には蓬莱橋や川越遺跡等の歴史的施設やマラソンコース「リパティ」等の運動施設が整備されており、地域住民のみならず多くの人が大井川を利用しており、観光振興や地域活性化に向けたポテンシャルが非常に高いエリアとなっている。

しかし、蓬莱橋周辺は利便施設や河川へのアクセス性が課題となっており、地域住民や観光客からはより良い整備を望む声が多く上がっていた。

このような中、「島田市大井川ミズベリング協議会」が設立され「蓬莱橋」を中心とした「大井川宝来地区かわまちづくり計画」が2017年3月に登録された。



図3 蓬莱橋（島田市提供）

(2) 登録に向けた取組

島田市では、2016年5月に島田市観光課、建設課、観光協会、商工会議所や、蓬莱橋関係団体である蓬莱橋周辺整備促進協議会、蓬莱橋ぼんぼり祭り実行委員会、観月会、蓬莱橋を管理する蓬莱橋土地改良区等と、河川管理者である静岡河川事務所からなる「島田市大井川ミズベリング協議会」を設立し、蓬莱橋左岸側の周辺の活用と整備についてが議論を重ねてきた。協議会の中では歴史ある蓬莱橋を活かし景観に配慮した整備を望む意見が多くあげられた。

また、協議会の下部組織として物販部会、イベント部会を設置し、試験物販等を行い、蓬莱橋左岸側の活用を具体化した。

協議会、検討部会における9回の議論の結果をとりまとめ、かわまちづくり計画の申請を行い、平成29年3月に登録に至った。

(3) 計画の概要

宝来地区のかわまちづくり計画では、蓬莱橋を島田市中心部に「観光・交流」「にぎわい」「憩いの場」を創出できる拠点として整備することを目的にハード整備やソフト施策を実施していく。蓬莱橋と大井川が形成する歴史を感じる景観に配慮された計画になっていることが計画の特徴となっている。

(4) ソフト施策

ソフト施策は、「島田市大井川ミズベリング協議会」を核として展開され、島田市特産品であるお茶ややまゆり商品（農産物・農産加工品）等の物産販売、「蓬莱橋ぼんぼり祭り」「観月会」「水辺で乾杯」等のイベントを実施している。現在では地元団体主催のマルシェ等のイベントも実施され、市民主体での「にぎわい」も生まれており、連携をとおして地域づくり、人づくりも行い、地域の活性化が図られている。今後は基盤整備に加え、オープンスペースや木陰の散策路等の整備により、「にぎわい」「憩いの場」の環境づくりが更に進んでいくため、新たなイベントの開催や多くの集客が期待される。

(5) ハード施策

a) 計画内容

ハード施策は、協議会での意見が反映され、歴史、景観を活かした整備を前提とし、新設整備と、既存施設の機能拡充が計画された。（図-4）

河川管理者は治水上下及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設の整備として、坂路、階段、親水護岸、駐車場の基盤整備を担当した。島田市は、河川や観光拠点として活かすための案内機能や利便施設の整備として、蓬莱橋の通行料金徴収する番小屋、物販販売、休憩施設、トイレ、散策路や看板の整備を担当し、本年度完成を予定している。

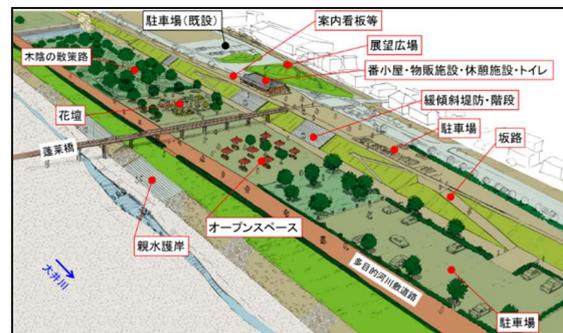


図4 計画時の整備概要

b) 整備の実施

かわまちづくりの計画申請に基づき、国土交通省、島田市にて物販施設や基盤整備等を実施している。

物販施設は、蓬莱橋の全長897.4mに由来して、2018年1月に蓬莱橋897.4茶屋（やくなしちゃや）と命名され、

2018年3月20日に竣工式が行われた。(図-5) 蓬莱橋は、長い木＝長生の橋、全長897.4mは厄無しの語呂合わせで縁起が良いとされている。

基盤整備については、景観・色彩に配慮した整備が実施され、蓬莱橋や大井川の砂礫河原に馴染むよう河原の玉石を利用した階段整備や高水敷の土に馴染む脱色アスファルト等を利用した基盤整備が実施された。

令和2年度までに、駐車場、階段、親水護岸、坂路、物販施設、番小屋、トイレの整備が完了し、令和3年度は、蓬莱橋上流側の散策路整備、案内看板等の整備を予定する。



図-5 蓬莱橋897.4茶屋(やくなしちゃや) 竣工式の様子

(6) かわまちづくりによる効果・期待

階段や坂路、親水護岸などのハード整備により、高水敷や水際部への導線が確保され、一連の親水ゾーンとしてのとして利用が可能となった。また、897.4茶屋は橋を渡橋する観光客の休憩、お土産の購入場所として機能している。今後は、高水敷上に散策路も整備されることから、益々滞在時間が長くなるものと考えられる。

これらにより、蓬莱橋を活用した一層の観光振興が図られるとともに、賑わいのある水辺空間の創出により地域の活性化に繋がることを期待する。

また、観光客が増えることは情報発信の増加にも繋がりが、集客効果の助長に寄与する。さらにリピーターが増加すれば、持続性のある地域づくりが実現することを期待する。

4. 今後の取り組み

蓬莱橋は全長が897.4mと長く、左岸側から渡った先の右岸側には主だった目的地がないこともあり、橋の途中で折り返して帰る観光客等が多く、滞在時間が短いという課題がある。そこで、令和2年度には、これまで先行して進めてきた対岸にあたる蓬莱橋右岸側を対象に、活用や整備を議論する検討部会を開催した。検討部会はミズベリング協議会の下部組織として立ち上げたものであり、市役所の若手職員や、市民が参加した。

検討部会参加者により、高水敷の広場・トイレ・散策路などの整備や民間事業者等と連携したオープンカフェ

やデイキャンプ場などの活用(図-6)が検討され、2021年3月には「大井川蓬莱橋右岸地区かわまちづくり」が「かわまちづくり支援制度に係る計画」に登録された。

今後は、蓬莱橋の左岸側と一体となったイベント等により人々の「ふれあいの場」としての活用を予定している。兩岸のかわまちづくりにより蓬莱橋の魅力をさらに強化し、大井川を軸に観光客が周遊するネットワークの形成を目指すものである。

検討部会では、牧之原地と蓬莱橋の歴史、現状の緑豊かな景観などとの調和を踏まえて進めていくべきとの意見があった。活用、整備にあたり、地域の魅力を損なうことなく事業を推進することが重要である。

なお、令和3年度には、右岸側の活用にあたっての社会実験を予定しており、一歩づつ具体化に向けて進んでいるところである。

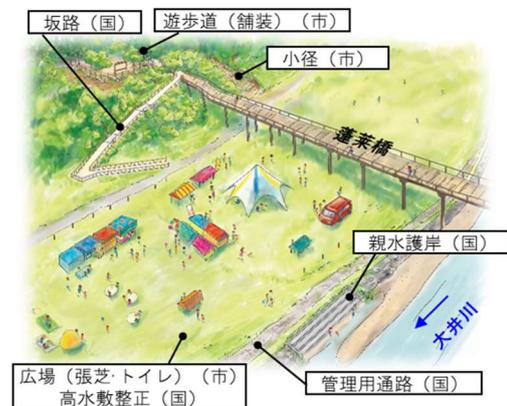


図-6 大井川蓬莱橋右岸側の整備・活用イメージ

5. おわりに

「大井川宝来地区かわまちづくり計画」が2017年3月に登録され、現在まで整備を実施しており、2021年3月には「大井川蓬莱橋右岸かわまちづくり計画」が新たに登録された。現在は新型コロナウイルス流行により全国的に観光地の人出が減少し、蓬莱橋についても例外ではなく観光客は減少している。アフターコロナを見据え、蓬莱橋をはじめとするの魅力ある既存施設を活かし、左右岸一体となったかわまちづくり計画による蓬莱橋周辺の新たな整備を進めていくことで、より魅力的となった宝来地区を訪れる利用者が新型コロナウイルス流行前よりも増加することが想定され、宝来地区の賑わいが大井川流域に広がっていき、地域活性化に寄与することも期待される。今後も島田市や関係団体と協力をして、水辺のにぎわいの創出をしていきたい。

参考文献

- 1) 国土交通省水管理・国土保全局河川環境課：「かわまちづくり」支援制度実施要綱
- 2) 国土交通省水管理・国土保全局：河川空間のオープン化活用事例集